（別紙様式４）

2024 年度　核融合科学研究所スクーリング・ネットワーキング事業
実施報告書

Fusion Science School (FSS)			
実施責任者	所属機関： 静岡大学	職名： [redacted]	氏名： 近田　拓未
実施責任者連絡先	電話： 054-238-4796	E-mail： [redacted]	
スクールテーマ	核融合炉のつくりかた ～核融合工学入門～		
開催時期	2025 年 2 月 17 日―2025 年 2 月 19 日		
開催期間	3 日間		
開催場所	京都府京都市　ホテル京都エミナース		
参加人数	参加者：80 人（うち，学生 56 人） 講師：7 人 人数内訳：核融合分野 23 人，他分野・企業従事者等 57 人 ※ スクール参加者リストを添付すること。氏名，所属，職種・職位・学年，メールアドレス等を含むこと。		

執行内訳（単位：千円）直接経費のみ	物品費	旅費	人件費・謝金	その他	合計
	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]
	※ 収支報告書は，別途通知する様式にて証憑書類とともに提出すること。				

実行委員会構成　（原則として 3 か所以上の異なる所属機関の委員で構成）				
	氏名	所属機関・部局	職名・学年	メールアドレス
実行委員長（実施責任者）	近田　拓未	静岡大学・学術院理学領域	准教授	[redacted]
経理責任者（実行委員長と同機関の事務職員）	中村　智浩	静岡大学・財務施設部契約課	課長	[redacted]
実行委員 （人数に応じて行数を増やしてください）	横峯　健彦	京都大学・大学院工学研究科	教授	[redacted]
	谷川　博康	量子科学技術研究開発機構・六ヶ所フュージョンエネルギー研究所	次長	[redacted]
	近藤　浩夫	三菱重工業株式会社・	主席技師	[redacted]
	芦川　直子	京都フュージョニアリング株式会社	Fusion Engineer	[redacted]
	田中　照也	核融合科学研究所・研究部	准教授	[redacted]
	荻野　靖之	東北大学・金属材料研究所	助教	[redacted]

	長坂　琢也	核融合科学研究所・研究部	教授	[redacted]
	帆足　英二	大阪大学・大学院工学研究科	准教授	[redacted]
	磯部　兼嗣	量子科学技術研究開発機構・六ヶ所フュージョンエネルギー研究所	グループリーダー	[redacted]
	小柳津　誠	量子科学技術研究開発機構・六ヶ所フュージョンエネルギー研究所	主幹研究員	[redacted]
	大宅　諒	九州大学・総合理工学研究院	助教	[redacted]
	宍戸　博紀	東北大学・大学院工学研究科	助教	[redacted]
	向井　啓祐	核融合科学研究所・研究部	准教授	[redacted]

※ 次頁に続きます。

スクールの実施内容及び得られた成果等 ※ スクールプログラムを別紙で添付すること。	1. 本事業によって得られた成果のうち特筆すべき事項 まず、核融合について興味があるが初学者で、まだ研究分野を決めていない（研究室に所属していない）学部生や高専生に、核融合研究、または関連研究に興味を持たせることができた点である。また、所属の多様性も特筆すべき点に挙げられる。北海道から沖縄県まで、物理、化学、工学関連のみならず、生物科学や地球科学、さらに農学系の学科に所属する学部生が参加した。加えて、総合商社やメーカー等、大小さまざまな企業からの参加者もあり、同世代だけでなく、世代をまたいでネットワーキングができた点も重要な成果と考えられる。世代間のネットワーキングを促進するために、グループ分けの際にあらかじめ多様なバックグラウンドを持つように工夫した。 2. その成果が核融合分野の人材育成に果たした（果たすと期待される）事項 これまで核融合分野は、物理、化学、工学といった分野の一部と捉えられていたと思われるが、その裾野を広げ、生物学や経済学など、あらゆる分野につながっている点を参加者に認識させることができた。このことは、核融合自体の研究や仕事をするだけでなく、他の分野や仕事においても核融合が関わりうることを理解するきっかけになったと考えられる。このように、直接的に核融合の研究者等を増やすだけでなく、広い意味で核融合に関わる人材を育成することで、その後に参加者が各自の場でさらにネットワークを広げる「核」となると考えられる。 3. 今後改善すべき点について参考となる事項 採択から実施までに 2 ヶ月弱しかなく、参加者の募集期間やスクールの準備期間が十分に取れなかった。アンケート結果では、スクール自体の満足度は非常に高いものであったが、募集をもっと長く、またより多様に広くすべきだった点を指摘するものもあった。事務手続きに関しても、時間の制約から実行委員だけでなく、委託された大学の事務職員に過度な負担をかけることとなったことも、今後の改善点として重要と考えられる。
備考	

Fusion Science School 京都：核融合炉のつくりかた　プログラム

2025 年 2 月 17 日（月）

13:00	受付
13:30	開会の挨拶
13:45～14:45	講義①　核融合炉とエネルギー（エネ総研・寺井隆幸先生）
14:45～15:45	講義②　核融合反応の起こし方①磁場を使う（QST・宇藤裕康先生）
15:45～16:45	講義③　核融合反応の起こし方②レーザーを使う（阪大・岩本晃史先生）
18:00～19:00	夕食
19:30	講義振り返り（質問会）

2 月 18 日（火）

7:00～ 9:00	朝食
9:00～10:00	講義④　核融合炉の設計の仕方（Helical Fusion・後藤拓也先生）
10:00～11:00	講義⑤　核融合燃料の扱い方（QST・枝尾祐希先生）
11:00～11:15	コーヒーブレイク
11:15～12:15	講義⑥　産業界の核融合炉との関わり方（三菱重工・近藤浩夫先生）
12:15～13:30	昼食
13:30～17:30	グループワーク＆ディスカッション～LEGO でつくろう核融合炉～
17:30～18:00	審査・表彰
18:00～20:00	懇親会

2 月 19 日（水）

9:00～ 9:30	バス移動（2 台）
9:30～11:30	核融合施設見学（京都フュージョニアリング京都リサーチセンター、または京都大学エネルギー理工学研究所）
11:30～12:00	バス移動
12:00	京都駅で解散